

福祉部会 7グループ

今後の課題と活動方向を話し合う 相手のニーズをくみ取った活動を



1/23運営会議風景 熱心な話し合い

20周年いきいき文化祭での「一寸奉仕」



グループわ は昨年20周年を迎え、気持ち新たに取組みを進めることになりました。

そのような新年の1月23日、福祉部会の定例運営会議では、各グループの現状や直面している課題、今後の目標等について、率直な話し合いがおこなわれました。福祉部会各グループ代表のみなさんのコメントを特集します。(編集・浜田)

福祉部会の活動概要 福祉部会長 加藤勇治

所属7グループは、福祉の増進に少しでも寄与すべく、それぞれが自らの特技や経験を活かし、仲間と力を合わせて以下の活動を実践しています。

- ①福祉施設への友愛訪問活動 : 「あんだんて」
「一寸奉仕」
- ②障害者施設での自立支援活動 : 「さおり・たまも」
「ひゅうまんの心」
- ③福祉施設での介助やりハビリ支援活動 : 「真愛ホーム」
- ④関係団体主催イベントへの参画とふれ合い交流活動
「一寸奉仕」
- ⑤恵まれない子ども、独居高齢者への支援活動
「エンジェル支援の会」
みんなの食堂「なかみち・こみち」

活動メンバー確保が課題

「真愛ホーム」 横井幸雄

週2回、入所者の入浴後のケアなどの活動を継続しています。

H10年のスタート時は福祉部会でしたが、地域の活動なので中央区会主体の活動に移管されました。移管当時は福祉部会が側面的に支援しましたが、将来は全面移管の予定でした。移管後8年を経過しましたが支援を継続しています。

この施設は、賀川豊彦の流れをくむイエス団の経営です。私は、賀川豊彦記念館の語り部活動にも携わっています。

【今後の目標】

このようなニーズに根ざした地道な地域貢献活動は継続すべきと思っています。このような地域貢献活動への関心が薄れているように思い、残念な気がします。自分たちがしたいことを優先するだけではいけないと思います。

移管後8年を経過していますので、時期を見て中央区会に一本化したいと思えます。

わずかな支援が大きな喜びに

「一寸奉仕」 増金スミ子

南京玉すだれや皿回し、動物風船、白波五人衆等々、いろんな芸で要請に応じて随時施設訪問しています。問題はメンバーの高齢化で、なかなか団体行動ができにくくなっています。個人プレイになってきているのが問題です。

良い話もあります。南京玉すだれを新たに三人さんに教えることになりそうです。昔、プロの芸人さんに教わった芸ですが、引き継いで輪が広がっていけば嬉しいです。

【今後の目標】

活動を始めた時から持ち続けている精神を忘れず、これからも「わずかな支援が大きな火種になり得、大きな喜びにつながり得る」ことを伝授していきます。

同じ時間を楽しく共有していきたい

「ひゅうまんの心」 島村千恵子

健福21期の3年生のグループ学習で施設訪問を始めました。当時10人だったのが、卒業してから30人に増えました。ハンドベルや鳴子、笑いヨガ等々で楽しんだり、有機栽培の手伝いをしています。

【今後の目標】

認知症、知的障害の人達との関わりの中で、同じ時間を楽しく共有していける空間を作り上げ、人間としての尊厳が守られ、豊かな人生と自己実現できるよう支援していきます。